

佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 総括・評価シート

2020（令和2）年_効果検証

基本目標1 安定したしごとをつくる		基準値	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
○有効求人倍率 ※佐野職業安定所提供資料より (職業取扱業務状況、年間平均値)	目標値	0.95	—————→				1.00
	実績値	(0.96)	0.93	0.91	0.99	1.03	0.99
○従業員数 ※RESAS従業員数(企業単位)	目標値	35,476	—————→				37,600
	実績値	36,552					35,504
委員評価	総合戦略により成果を挙げた	例:全ての数値目標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合					
	総合戦略によりある程度成果を挙げた	例:一部の数値目標が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合					4
	総合戦略により効果があった	例:数値目標達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合					6
	総合戦略での効果がなかった	例:数値目標の実績が悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合					3
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・田沼の工業団地の企業も少しずつ営業しだしているの、少しずつ良い方向に行くのではないかな。 ・業態での有効求人倍率の差があると思う。 ・働き方のニーズが多様化しており、対応や戦略も難しいと思われる。 ・有効求人倍率は下降傾向でありましたが、コロナの影響が大きいので注視したいと思う。 ・誘致企業、転入(移住)者も考慮すれば、総合戦略によって、従業員数の減少度合いを押し止めたともいえる。 ・企業誘致等の実績はアップ。機械化等の進展により従業員数の増加は求められない現在、有効求人倍率の大幅な増加は厳しいと考えられる。 ・佐野の立地条件、自然環境等のアドバンテージを前面に、企業数を増やす努力の継続が今後必要と思われる。 ・景気の拡大局面であった点もあるが、有効求人倍率は目標に近かった点は評価できる。 ・判断が難しい。総合戦略がなければ、より落ち込んでいるかもしれないとすれば、それなりの効果があったとみることができるかもしれないが。 ・台風など大きな災害があったが、官民一体となることで、さらに高い数字が期待できると考える。 						

(参考)第2期戦略数値目標

基本目標1 安定したしごとをつくる		基準値	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
○従業員数 (事業所単位、単年、人)	54,618人 (H28年)					—————→	55,000人 (R4年)
○一人あたりの市民所得(年間、千円)	3,057千円 (H28年度)					—————→	3,301千円 (R3年度)

基本目標2 新しい人の流れをつくる		基準値	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
○社会動態人口増減 ※総務省統計局 1月1日住民基本台帳	目標値（累計）	131	→				630
	実績値（累計）	(154)	△29	△14	91	276	383
	実績値（単年度）	(154)	△29	15	105	185	107
○観光入込客数 ※栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果	目標値（千人）	8,623	→				10,000
	実績値（累計）	8,623	8,554	8,700	8,883	8,741	8,575
委員評価	総合戦略により成果を挙げた	例：全ての数値目標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合					
	総合戦略によりある程度成果を挙げた	例：一部の数値目標が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合					4
	総合戦略により効果があった	例：数値目標達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合					6
	総合戦略での効果がなかった	例：数値目標の実績が悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合					3
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによって観光は難しいが、市としては何か考えて実行すべき。 ・コロナ禍にあわせた集客を考えなくてはならず、成果達成は難しい。 ・佐野に住みたい環境をつくる、人の流れ。 ・アウトレットに来佐される人たちに、ぜひクリケット場に佐野市のインフォメーションセンター（ビジターセンター）を建築し、唐沢山城を紹介させていただきながら、よりよい方策を。 ・郷土博物館の移転も視野に入れて、佐野の案内を図り、憩いの場となれば集客にもつながると思います。道の駅も近いし。 ・観光入込客数の全般的な増加傾向、人口社会増については総合戦略の効果があったとみてよいのではないかと。 ・観光入込客数が増加しない。佐野市に足りないものは「おしゃれ」「ロマン」というイメージだと思う。 ・この地域にしかないもの、他よりも優れたもの、土地、交通、観光資源等の再発見によりアピールすべきものがあると考えることから、引き続きの対応があれば、今後の改善が期待できると思われまます。 ・5年で人口増減がプラスになった点は評価できる。 ・日帰りでの観光が佐野は多いのではないかと思うので、より認知度を上げるPRをしてもらいたい。 ・観光は気象や社会の動きに絡みやすいので、判断が非常に難しい。 						

(参考)第2期戦略数値目標

基本目標2 新しい人の流れをつくる		基準値	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
○社会動態の人口増減数 (外国人含む、累計、人)		107人 (H30年)	→				600人 (R2-R6年)
○滞在人口（平日）		98,956人 (H30年)	→				100,000人 (R5年)
○滞在人口（休日）		107,765人 (H30年)	→				110,000人 (R5年)

基本目標3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる		基準値	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値
		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
○婚姻数 ※栃木県保健統計より	目標値	587					540
	実績値	587	544	527	540	528	444
○合計特殊出生率 ※栃木県保健統計より	目標値	1.47					1.64
	実績値	1.47	1.43	1.36	1.39	1.38	1.33
委員評価	総合戦略により成果を挙げた		例:全ての数値目標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合				
	総合戦略によりある程度成果を挙げた		例:一部の数値目標が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合				
	総合戦略により効果があった		例:数値目標達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合				8
	総合戦略での効果がなかった		例:数値目標の実績が悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合				5
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・婚姻数を増やす市としての努力はどのようにしているのか。できることはすべき。 ・市民のニーズの多様化もあり、個々の意向への対応が難しい。 ・子育てしやすい環境作りが重要かと思えます。手当支給もより充実させる考えを（予算計上していく）。 ・子どもを育てやすい環境であることをPRしていく必要がある。 ・少子化、その他の大きな社会の趨勢によるもので、総合戦略の取組効果は消滅していると感じざるを得ない。 ・婚姻数が減っている。出会いの場をつくる。例えばマッチングアプリを使う。 ・日本全体の問題でもあり、なかなか難しい問題であるが、安定した収入のある場となすことで、生活が安定し、家庭を持つ方が増加すると考えられますので、多方面での継続対応が必要と思えます。 ・特効薬はないが、地道な取り組みを継続してください。 ・数字を見る限り効果を感じられない。 ・新たな戦略は第1期を基に策定したはず。新たな展開に期待。「結婚～子育て」は災害等があっても重要なものとしてほしい。 ・第3子というハードルから、第2子に変えることでさらに子育てしやすく、産みたいまちへ一歩近づくと考える。 						

第2期戦略数値目標

基本目標3 結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる		基準値	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
○婚姻数 (単年、累計)	528件 (H29年度)					540件 (R5年度)	
○合計特殊出生率	1.38 (H29年)					1.64 (R5年)	

基本目標4 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守る		基準値	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値
		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
○これからも佐野市に住み続けたいと思う市民の割合 ※市民アンケート	目標値	81.0%	—————→				90.0%
	実績値	81.0%	80.8%	79.2%	82.4%	77.8%	76.9%
委員評価	総合戦略により成果を挙げた	例: 全ての数値目標が目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合					
	総合戦略によりある程度成果を挙げた	例: 一部の数値目標が目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合					3
	総合戦略により効果があった	例: 数値目標達成状況は芳しくなかったものの、取組が前進・改善したとみなせる場合					5
	総合戦略での効果がなかった	例: 数値目標の実績が悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言い難いような場合					5
委員意見欄	<ul style="list-style-type: none"> ・市民へのアンケートの中に佐野市のいいところ、住みよいところを挙げて考えるべき。 ・住み続けたいと思う市民が減ってきているということは、そもそも市民と行政で見ているところが違うのでは。 ・災害やコロナ禍等の対応が市民の評価になります。職員には頑張ってもらいたい。 ・市に住みたいと思える内容をPRしていくことが必要。 ・市民意識として5年で数値が上下しており、安定した増加基調を生み出せてはいない。自然災害等の影響を割引けば、多少あったとしてもよいのでは。 ・市民の割合は80%前後で推移しており、ほぼ一定の割合を維持しているとみなせるのではないかと考えます。数値の変化は誤差の範囲程度。 ・栃木県でも恵まれたエリアにあると思われます。その特徴を前面にアピールすることで、改善が図られる。 ・安心して生活ができるよう、防災・子育て事業の充実を図る必要がある。 ・新しい技術を取り入れることで、高い目標を達成できると考える。 						

第2期戦略数値目標

基本目標4 時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守る		基準値	1年目	2年目	3年目	4年目	目標値
			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
○これからも佐野市に住み続けたいと思う市民の割合		77.8% (H30年度)	—————→				90.0% (R6年度)